

2024 年の国際石油市場の見通し

- OPEC プラスは市況を下支えできるか? -

< 報告要旨 >

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット 石油グループマネージャー
研究主幹 森川 哲男

本報告のポイント

1. 2024 年の需要は 1 億 300 万 b/d と緩やかに増加する。2024 年第 1 四半期の OPEC プラス有志国の自主的追加減産にもかかわらず、年間ベースでは、米国など非 OPEC プラス諸国の増産もあり 2024 年の供給量は 1 億 310 万 b/d になる。その結果、通年ではほぼ均衡か、若干の供給超過になる。
2. 2024 年の国際原油（Brent）価格は \$85/bbl が中心水準と予測する。OPEC プラスの結束、景気減速による需要低迷、イラン生産量等中東情勢が主要な不確実性である。

石油需給

3. 世界の石油需要は、2023 年第 3 半期に前年同期比で 260 万 b/d（2.6%）増加し 1 億 280 万 b/d であった。景気減速による需要低迷の可能性をはらみつつ、足元の需要は堅調に推移している。
4. 中国の需要は、2023 年第 3 四半期に前年同期比で 260 万 b/d（19.2%）増の 1,610 万 b/d と急激に増加している。しかし、不動産不況が深刻であり、GDP 成長率は 2023 年の 5.0%から 2024 年には 4.2%に減速するとされている。イラン産がほとんどを占めるとされている「マレーシア」産の輸入量が増加しているが、米国制裁対象になる可能性もある。
5. 世界の石油供給は、2023 年第 3 四半期に前年同期比 90 万 b/d（0.9%）増の 1 億 200 万 b/d となった。OPEC プラス減産強化が影響し、供給増加ペースは需要に追い付いていない。
6. 11 月 30 日の会合で、OPEC プラス有志国は 2024 年第 1 四半期に 220 万 b/d の追加減産・供給量削減を実施することを決定した。現行減産量からの深堀分は 70 万 b/d にとどまるが、短期的な価格暴落は回避した。但し、OPEC プラス全体の追加減産が合意出来ず、アンゴラは自国の生産目標が下方修正されたことに反発しており、減産体制維持と結束の度合いが今後の注目点で

ある。

7. 10 月 7 日に勃発したイスラエル・ハマス軍事衝突が直接的に石油供給途絶を起こす可能性は限定的である。しかし、米国がイラン石油輸出に対する制裁を強化すればイランの生産量減少要因になる。また、フーシー派等による油田・タンカー攻撃といった供給途絶リスクもある。
8. 米国の原油生産量は、2023 年第 3 四半期に前年同期比 100 万 b/d (8.7%) 増の 1,309 万 b/d であった。生産性の高い油井への集中で緩やかな増産を維持している。
9. 2023 年 10 月の OECD 商業在庫は 28.1 億バレル、国家備蓄は 12.1 億バレルであった。2022 年の備蓄放出及び需給緩和によって商業在庫は増加したが、OPEC プラス減産強化が影響し過去 5 年平均値には届いていない。

マクロ経済・金融市場

10. 世界 GDP 成長率は 2023 年の 3.0%から 2024 年には 2.9%と若干低下するとされている。米国のインフレは緩和したが、中国不動産危機、利上げの影響、気候変動・地政学的対立がリスク要因として指摘されている。世界最大の石油輸入国である中国の景気減速リスクは石油需給及び価格への大きな不確実性である。

以上

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp